

1 現行制度導入のねらいと現行制度の評価・課題及び検討の観点について

現行制度導入のねらい

(H12年度諮問会「答申」より)

①	②	③
生徒の学校選択幅を拡大する	生徒一人一人の様々な優れた面を積極的に評価する	各高校が自校や学科等の特色に沿った選抜方法を工夫する



<現行制度の主な特徴>

① ② ③	すべての高校で特色化選抜と一般選抜を実施
①	特色化 普通科等において隣接学区からの出願可
① ② ③	特色化 募集人員の上限を全学科で50%に拡大(H22~)
② ③	特色化 各学校ごとの検査方法で選抜
③	特色化 求める生徒像と対応する検査を明示

旧制度から実施

一般	すべての高校で学力検査を実施
一般	全県統一の方法で選抜

現行制度に対する主な意見

検討の観点

評価	○希望するすべての生徒が特色化・一般に出願することができる
課題	●特色化でも一般でも、同じ高校を受検する機会が多い ●入試に係る期間が長期化し、1月以降、中学校では落ち着いて学習に取り組めない ●高校において、3年生に対する進路指導の時間を十分に確保できない
評価	○特色化では隣接学区からの出願もできるため出願校の選択肢が拡大した
課題	●他学区の生徒がより多く入学することで、学区内の生徒が合格しにくくなるのではないかと
評価	○高校では、第1志望の生徒がより多く入学することで、目的意識が高く、主体的・意欲的な生徒が増加した
課題	●特色化不合格者の心理的な負担や劣等感が増大 ●特色化結果通知後の学級運営に影響 ●特色化の意義がさらに希薄
評価	○学力だけではなく、中学校3年間の生活を幅広く積極的に評価できて良い(されて良い) ○高校においては、自校の特色に応じた選抜方法を選択できて良い
課題	●普通科等では結果的に学力検査だけで評価し選抜できるのではないかと ●「求める生徒像」が具体性に乏しく、どのような生徒をどのような方法で評価したいのかが不明確

1 入試期間の長期化

2 受検生の心理的な負担

3 多角的尺度による評価

4 明瞭性・公平性の担保

② 前回の諮問会 (H23. 2. 24)における主な意見概要

●→課題としての意見 ○→評価（成果）としての意見 ☆→検証・今後の改善に関する意見

1 入試期間の長期化（2回の入試の実施）について

- 「特色化選抜」でも「一般選抜」でも同じ高校を受検する機会が多く、2回の入試を実施する必要性に乏しいのではないか
- ☆ 2回の受検機会の必要性に乏しいのであれば、「特色化選抜」のメリットを引き継ぎつつシンプルな制度（1回の入試）としてはどうか
- ☆ 現行制度は「行きたい学校」を2回まで受検できることを保証した制度ではなかったか
- ☆ 2回の受検機会を確保することが良いのかどうか検討すべきで、仮に2回の受検機会が必要となれば、その期間を短縮すべきである

2 受検生の心理的な負担について

- 「特色化選抜」を不合格になった場合のショックが非常に大きい。また、合格者も周りへの配慮から素直に喜べない状況であった
- 制度的な面で生徒にかける負担が大きいのは課題である

3 多元的尺度による評価について

- 生徒の評価を一元的なものから多元的なものも可能とするという現行制度の趣旨には共感する部分が多い
- ☆ 入試期間の長期化（2回の入試の実施）について、総合的にみて課題が多いのであれば、その弊害を取り除きながら、多元的な尺度による評価は残すといった改善が望ましいのではないか
- ☆ 過度に受検生に負担を強いるような特異な選抜方法については慎重であってほしい
- 普通科では、何が特色なのか不明確で、「特色化選抜」を実施する意義に乏しいのではないか

4 入学者選抜に求められる明瞭性・公平性の担保について

- ☆ 入試において、明瞭性・公平性が重要であるのは当然であり、そのためには、入試制度はできるだけシンプルであるのが良い

③ 岐阜県公立高等学校入学者選抜概況

◆ 年度別選抜別 募集人員・出願者数・合格者数・出願倍率（連携型選抜を除く）

		特色化選抜				一般選抜(変更後)			
		公立全日制				公立全日制			
		普通科等(20%)	専門学科	総合学科	計	普通科等	専門学科	総合学科	計
19年度	募集人員 A	1,672	2,880	580	5,132	6,664	2,873	584	10,121
	出願者数 B	8,382	6,019	1,099	15,500	7,146	3,030	535	10,711
	合格者数	1,672	2,880	578	5,130	6,475	2,736	505	9,716
	出願倍率 B/A	5.01	2.09	1.89	3.02	1.07	1.05	0.92	1.06
20年度	募集人員 A	1,688	2,900	580	5,168	6,728	2,898	584	10,210
	出願者数 B	8,421	6,223	1,096	15,740	7,246	3,107	563	10,916
	合格者数	1,688	2,900	576	5,164	6,575	2,796	510	9,881
	出願倍率 B/A	4.99	2.15	1.89	3.05	1.08	1.07	0.96	1.07
21年度	募集人員 A	1,656	2,900	504	5,060	6,606	2,895	538	10,039
	出願者数 B	8,163	6,162	1,113	15,438	6,911	3,111	578	10,600
	合格者数	1,656	2,898	504	5,058	6,406	2,822	514	9,742
	出願倍率 B/A	4.93	2.12	2.21	3.05	1.05	1.07	1.07	1.06

		普通科等(50%)	専門学科	総合学科	計	普通科等	専門学科	総合学科	計
22年度	募集人員 A	4,224	2,900	540	7,664	4,311	2,891	540	7,742
	出願者数 B	8,960	6,136	1,036	16,132	4,875	3,064	535	8,474
	合格者数	4,198	2,898	540	7,636	4,215	2,772	514	7,501
	出願倍率 B/A	2.12	2.12	1.92	2.10	1.13	1.06	0.99	1.09
23年度	募集人員 A	4,076	2,860	520	7,456	4,216	2,856	520	7,592
	出願者数 B	8,458	6,083	1,020	15,561	4,577	3,037	536	8,150
	合格者数	4,047	2,854	520	7,421	4,047	2,744	501	7,292
	出願倍率 B/A	2.08	2.13	1.96	2.09	1.09	1.06	1.03	1.07

◆ 「特色化選抜」不合格者の一般選抜への再出願率について

「再出願率」＝ 「特色化選抜」不合格者の同一校・同一学科の「一般選抜」再出願率

	H23			H22			H21		
	全体	普通科等	専門・総合	全体	普通科等	専門・総合	全体	普通科等	専門・総合
全県	79.0	79.6	78.4	77.6	77.2	78.1	82.4	84.6	78.7